

6月23日 セイレーン

地歴科のA先生と話をすると、いつもアカデミックな話題に発展する。所用で職員室へ彼女を訪ねたときのことだ。机の上の奇妙な物体が目についた。人の鼻と口だけの赤銅色の置物。そこに鉛筆が一本だけ差さっている。以前本校に勤めていた先生からのお土産だという。「あの先生、変わったものばかりくださるのです」そう言って、写真立てのようなものを本立ての後ろから引きずり出した。「怖い絵展」の絵葉書のようなようだ。描かれているのは美しい裸の女性2人と、船乗りらしき数人の男。A先生曰く、セイレーンの絵だとのこと。

セイレーンとはギリシャ神話に登場する、上半身は女性、下半身が鳥の姿をした、美しい歌声で船人を破滅に導くという魔物だ。サイレンの語源でもあり、スタバのロゴマークとしても有名だ。類似する伝承にローレイの話があるが、彼女もセイレーンの一種だという。

ところで、A先生がなぜ本立ての後ろに「怖い絵」を隠していたのかというと、2人の裸婦が描かれているからだそう。そこで私がA先生をたしなめる。「古来、芸術作品のモチーフとして裸婦が多く用いられるのは美しいからで、下心からじゃないよ。先生、美意識を教えるのも教師の仕事ですよ」

